

令和3（2021）年度
事業報告書

（令和3年4月1日から令和4年3月31日まで）

学校法人 聖徳学園

目 次

I 法人の概要

- 1 目的
- 2 建学の精神
- 3 設置学校
- 4 沿革
- 5 各学校の収容定員・在籍者数
- 6 役員・評議員の概要
- 7 教職員の概要
- 8 事務組織
- 9 施設設備の概要

II 事業の概要

- 1 令和3年度の主な事業
- 2 主な施設・設備事業内容
- 3 主な事業の目的・計画及びその進捗状況

III 財務の概要

～令和3年度決算にあたって～

- 1 資金収支計算書
- 2 活動区分資金収支計算書
- 3 事業活動収支計算書
- 4 貸借対照表

I 法人の概要

1 目的

本学園は、教育基本法及び学校教育法に従い、仏教精神を基調とした学校教育を行うことを目的とする。

2 建学の精神

学校法人聖徳学園の設立趣旨は、仏教精神を基調とした学校教育を行うところにある。

本学園は、この仏教精神とりわけ大乘仏教の精神を建学の精神とし、浄土真宗の宗祖親鸞聖人が和国の教主と敬慕された聖徳太子の「以和為貴」（和をもって貴しとなす）の聖句をその象徴として掲げ、「平等」「寛容」「利他」の大乘仏教の精神を体得する人格の形成をめざしている。

解説例

仏教の精神を具体的にあらわす言葉として、本学園では聖徳太子の『十七条憲法』の第一条にある「以和為貴」（和をもって貴しとなす）や「平等」「寛容」「利他」を掲げています。

まず、「以和為貴」とは、自己中心的で頑ななところを離れたやわらかなところのことです。また、「平等」とは、皆かけがえのない尊いいのちを持つことに気づくこと、「寛容」とは、あらゆるいのちの個性を受け入れ共感すること、「利他」とは、あらゆるいのちに奉仕することであり、それぞれが人間としてめざすべき精神なのです。

3 設置学校

(1) 岐阜聖徳学園大学

大学院	国際文化研究科
	経済情報研究科
教育学部	学校教育課程
外国語学部	外国語学科
経済情報学部	経済情報学科
看護学部	看護学科

(2) 岐阜聖徳学園大学短期大学部

幼児教育学科 第一部・第三部

(3) 岐阜聖徳学園高等学校

全日制課程 普通科・商業科

(4) 岐阜聖徳学園大学附属中学校

(5) 岐阜聖徳学園大学附属小学校

(6) 岐阜聖徳学園大学附属幼稚園

(7) 聖徳自動車学園

4 沿革

昭和37年12月	学校法人聖徳学園創立 岐阜南高等学校全日制普通科設置認可
昭和38年 4月	岐阜南高等学校開校
昭和39年 4月	聖徳自動車学園設置
昭和40年12月	岐阜南高等学校全日制商業科、保育科設置認可
昭和41年 1月	岐阜南女子短期大学(家政科・保育科第一部・保育科第二部)設置認可
昭和41年 4月	岐阜南高等学校商業科、保育科設置 岐阜南女子短期大学開学
昭和41年11月	岐阜南女子短期大学を聖徳学園女子短期大学に名称変更
昭和42年 4月	岐阜南高等学校体育科設置
昭和43年 2月	聖徳学園女子短期大学家政科第三部、保育科第三部設置認可
昭和45年 2月	聖徳学園女子短期大学初等教育学科設置認可
昭和45年 3月	聖徳学園女子短期大学家政科、保育科をそれぞれ家政学科、幼児教育学科に名称変更
昭和47年 3月	聖徳学園岐阜教育大学設置認可 聖徳学園岐阜教育大学附属小学校・附属中学校設置認可 聖徳学園女子短期大学幼児教育学科第二部保母養成施設廃止
昭和47年 4月	聖徳学園岐阜教育大学開学 聖徳学園岐阜教育大学教育学部初等教育課程・中等教育課程(国語専攻・数学専攻) 聖徳学園岐阜教育大学附属小学校・附属中学校開校
昭和49年 3月	聖徳学園女子短期大学初等教育学科を廃止
昭和51年 1月	聖徳学園岐阜教育大学附属高等学校設置認可
昭和51年 3月	聖徳学園岐阜教育大学中等教育課程に社会専攻・音楽専攻設置認可
昭和51年 4月	聖徳学園岐阜教育大学中等教育課程に社会専攻・音楽専攻設置 聖徳学園岐阜教育大学附属高等学校開校
昭和60年 3月	聖徳学園岐阜教育大学附属幼稚園設置認可 岐阜南高等学校保育科廃止
昭和60年 4月	聖徳学園岐阜教育大学附属幼稚園開園
平成元年 3月	聖徳学園女子短期大学幼児教育学科第二部廃止
平成元年12月	聖徳学園岐阜教育大学外国語学部設置認可(英米語学科・中国語学科・日本語学科)
平成2年 4月	聖徳学園岐阜教育大学外国語学部設置(英米語学科・中国語学科・日本語学科)
平成3年12月	聖徳学園女子短期大学商経学科設置認可
平成9年12月	聖徳学園岐阜教育大学経済情報学部設置認可(経済情報学科) 聖徳学園岐阜教育大学大学院新設 国際文化研究科設置認可(国際教育文化専攻・国際地域文化専攻)(修士課程)
平成10年 4月	聖徳学園岐阜教育大学を岐阜聖徳学園大学に名称変更 大学名称 変更に伴い、聖徳学園岐阜教育大学附属高等学校を岐阜聖徳学園大学附属高等学校に、聖徳学園 岐阜教育大学附属中学校を岐阜聖徳学園大学附属中学校に、聖徳学園岐阜教育大学附属小学校を岐阜聖徳学園大 学附属小学校に、聖徳学園岐阜教育大学附属幼稚園を岐阜聖徳学園大学附属幼稚園にそれぞれ名称変更 聖徳学園女子短期大学を岐阜聖徳学園大学短期大学部に名称(校名)変更 大学院新設、国際文化研究科(国際教育文化専攻・国際地域文化専攻) 岐阜聖徳学園大学に経済情報学部設置(経済情報学科)
平成11年 3月	岐阜聖徳学園大学短期大学部商経学科廃止
平成12年 3月	岐阜聖徳学園大学短期大学部生活学科第三部廃止
平成12年 8月	岐阜聖徳学園大学附属幼稚園を羽島キャンパスに移転
平成13年 4月	岐阜南高等学校を清翔高等学校に名称変更

平成13年10月	岐阜聖徳学園大学教育学部学校心理学科設置認可
	岐阜聖徳学園大学外国語学部外国語学科設置認可
平成13年12月	岐阜聖徳学園大学大学院経済情報研究科設置認可
平成14年 4月	岐阜聖徳学園大学大学院経済情報研究科設置(経済情報専攻)(修士課程)
	岐阜聖徳学園大学外国語学部外国語学科設置
	岐阜聖徳学園大学外国語学部英米語学科募集停止
	岐阜聖徳学園大学外国語学部中国語学科募集停止
	岐阜聖徳学園大学外国語学部日本語学科募集停止
	岐阜聖徳学園大学教育学部学校心理学科設置
	岐阜聖徳学園大学経済情報学部夜間主コース募集停止
平成15年11月	岐阜聖徳学園大学大学院経済情報研究科課程変更
平成16年 4月	岐阜聖徳学園大学院経済情報研究科博士課程開設
	エクステンションセンター開設
平成17年 5月	岐阜聖徳学園大学外国語学部中国語学科廃止
平成18年 1月	岐阜聖徳学園大学経済情報学部夜間主コース廃止
平成18年11月	岐阜聖徳学園大学教育学部学校心理課程設置認可
平成19年 4月	岐阜聖徳学園大学教育学部学校心理学科募集停止
	岐阜聖徳学園大学に教育学部学校心理課程を設置
平成19年12月	岐阜聖徳学園大学外国語学部英米語学科及び日本語学科廃止
平成20年 9月	岐阜聖徳学園大学教育学部学校教育課程設置認可
平成21年 4月	岐阜聖徳学園大学教育学部初等教育課程及び中等教育課程募集停止
	岐阜聖徳学園大学教育学部学校教育課程設置
平成22年 4月	清翔高等学校を岐阜聖徳学園高等学校に名称変更
平成23年 5月	岐阜聖徳学園大学教育学部学校心理学科廃止
平成24年 3月	岐阜聖徳学園高等学校体育科廃止
	岐阜聖徳学園大学附属高等学校廃止
平成26年 3月	岐阜聖徳学園大学教育学部中等教育課程国語専攻廃止
	岐阜聖徳学園大学教育学部中等教育課程音楽専攻廃止
	岐阜聖徳学園大学教育学部中等教育課程数学専攻廃止
平成26年10月	岐阜聖徳学園大学看護学部看護学科設置認可
平成27年 4月	岐阜聖徳学園大学教育学部学校心理課程募集停止
	岐阜聖徳学園大学短期大学部生活学科募集停止
	岐阜聖徳学園大学看護学部看護学科設置
	岐阜聖徳学園大学教育学部特別支援教育専修設置
	岐阜聖徳学園大学教育学部学校心理専修設置
	エクステンションセンターを地域・社会連携センターに名称変更
平成27年 9月	岐阜聖徳学園大学教育学部初等教育課程廃止
平成28年 3月	岐阜聖徳学園大学教育学部中等教育課程社会専攻廃止
	岐阜聖徳学園大学短期大学部生活学科廃止
令和 3年 4月	岐阜聖徳学園大学教育学部学校心理課程廃止

5 各学校の収容定員・在籍者数

令和3年5月1日現在

学 校	学部・課程等		在籍者数合計	収容定員
岐阜聖徳学園大学院 大 学 院	国際文化研究科修士（教育）		4	30
	国際文化研究科修士（地域）		1	20
	経済情報研究科博士（前期）		1	20
	経済情報研究科博士（後期）		0	9
岐阜聖徳学園大学	教育学部	学校教育課程	1,472	1,320
	外国語学部	外国語学科	582	600
	経済情報学部	経済情報学科	647	600
	看護学部	看護学科	370	320
岐阜聖徳学園大学 短 期 大 学 部	幼児教育学科第一部		112	200
	幼児教育学科第三部		132	150
岐 阜 聖 徳 学 園 校 高 等 学 校	普通科		758	750
	商業科		207	300
岐阜聖徳学園大学 附 属 学 校	附属中学校		195	225
	附属小学校		372	360
	附属幼稚園		105	135
総 合 計			4,958	5,039

6 役員・評議員の概要

令和3年4月1日現在

役員・評議員	理事（理事長を含む）	監事	評議員
定数	12人から13人まで	2名	25人から30人まで

1. 役員の概要

理事・・・現員12名(常勤7名、非常勤5名) 監事・・・現員2名(非常勤2名)

理事長	杉 山 元 彦	理事	清 水 昭 治
理事	上 原 理	理事	竹 本 浩 之
理事	観 山 正 見	理事	加 納 顯
理事	高 木 俊 明	理事	三 宅 隆 教
理事	宮 島 康 広	理事	大 野 實
理事	水 谷 啓	理事	山 田 貞 夫

監事	水 野 雄 二	監事	小 森 信 雄
----	---------	----	---------

2. 評議員の概要

評議員・・・現員27名(常勤15名、非常勤12名)

評議員	竹 本 浩 之	評議員	大 野 實
評議員	西 村 桂	評議員	山 田 貞 夫
評議員	山 内 眞由美	評議員	柏 木 良 明
評議員	福 島 春 夫	評議員	吉 永 和 加
評議員	泉 井 敬 文	評議員	伊佐地 恒 久
評議員	観 山 正 見	評議員	渡 邊 厚 代
評議員	高 木 俊 明	評議員	中 尾 治 子
評議員	宮 島 康 広	評議員	田 中 亨 胤
評議員	水 谷 啓	評議員	服 部 勝 人
評議員	清 水 昭 治	評議員	杉 山 令 憲
評議員	加 納 顯	評議員	杉 山 勝 久
評議員	上 原 理	評議員	村 瀬 恒 治
評議員	三 宅 隆 教	評議員	松 島 穰
評議員	杉 山 元 彦		

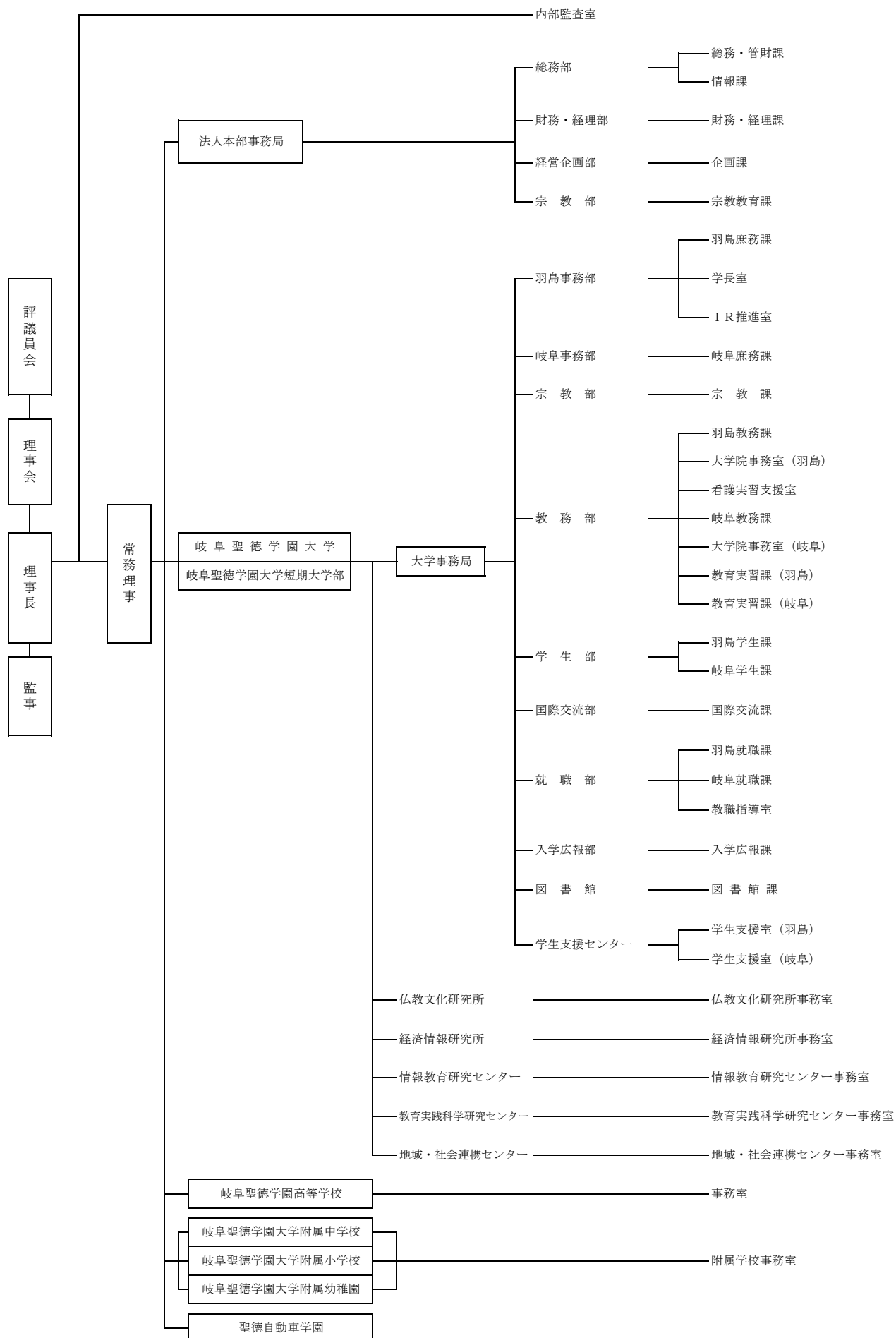
7 教職員の概要

令和3年5月1日現在

事業所		教 員		事 務		嘱 託 事 務		計		非 常 勤	
		男 子	女 子	男 子	女 子	男 子	女 子	男 子	女 子	男 子	女 子
法人本部		0	0	13	4	0	0	13	4	0	0
		0		17		0		17		0	
(小計)		0		17		0		17		0	
大学	教育学部	54	20	15	13	5	5	74	38	41	40
		74		28		10		112		81	
	外国語学部	13	7	13	2	2	0	28	9	18	14
		20		15		2		37		32	
	経済情報学部	18	4	14	6	0	0	32	10	19	7
		22		20		0		42		26	
	看護学部	6	23	1	4	2	2	9	29	4	9
		29		5		4		38		13	
(小計)		91	54	43	25	9	7	143	86	82	70
		145		68		16		229		152	
短期大学部		10	5	3	3	1	2	14	10	7	13
		15		6		3		24		20	
羽島キャンパス合計		73	50	29	19	9	7	111	76	63	63
		123		48		16		187		126	
岐阜キャンパス合計		28	9	17	9	1	2	46	20	26	20
		37		26		3		66		46	
大学合計		101	59	46	28	10	9	157	96	89	83
		160		74		19		253		172	
岐阜聖徳学園高校		42	13	4	3	3	2	49	18	26	13
		55		7		5		67		39	
(小計)		55		7		5		67		39	
附属	中学校	12	8	1	0	0	0	13	8	3	4
		20		1		0		21		7	
	小学校	9	11	1	0	0	2	10	13	1	8
		20		1		2		23		9	
	幼稚園	1	9	1	0	1	0	3	9	0	1
		10		1		1		12		1	
(附属学校計)		22	28	3	0	1	2	26	30	4	13
		50		3		3		56		17	
総 合 計		165	100	66	35	14	13	245	148	119	109
		265		101		27		393		228	
聖徳自動車学園		0	0	23	5	2	0	25	5	0	0
合計		0		28		2		30		0	

8 事務組織

令和3年4月1日現在



9 施設設備の概要

主な校舎（建物）面積

令和3年4月1日現在

区分	建物名		主構造	面積（㎡）
岐阜聖徳学園大学・大学院 岐阜聖徳学園大学短期大学部	羽島キャンパス	本館	鉄骨鉄筋コンクリート造陸屋根8階建	4,214.22
		図書館	鉄筋コンクリート造陸屋根5階建	2,007.92
		5号館	鉄筋コンクリート造陸屋根4階建	2,112.29
		6号館	鉄筋コンクリート造陸屋根5階建	4,013.89
		7号館	鉄骨造陸屋根7階建	8,739.05
		8号館	鉄筋コンクリート造陸屋根3階建	1,351.17
		9号館	鉄骨造陸屋根5階建	8,121.37
		附1：物置	鉄骨造合金メッキ鋼板ぶき平家建	163.58
		附2：自転車置場	鉄骨造アルミニウム板ぶき平家建	71.77
		第1学生会館	鉄筋コンクリート造陸屋根・亜鉛メッキ鋼板・スレート瓦葺2階建	1,153.31
		第2学生会館	鉄骨造陸屋根2階建	2,485.00
		第2体育館	鉄骨造亜鉛メッキ鋼板葺平家建	499.25
		南サークル棟	鉄骨造合金メッキ鋼板ぶき2階建	1,923.00
		東サークル棟	鉄骨造亜鉛メッキ鋼板ぶき2階建	731.70
		総合体育館	鉄筋コンクリート・鉄骨造ステンレス鋼板葺3階建	4,231.33
	岐阜キャンパス	1号館	鉄筋コンクリート造陸屋根5階建	2,844.03
		2号館	鉄骨鉄筋コンクリート造陸屋根7階建	6,366.42
		3号館	鉄骨鉄筋コンクリート造陸屋根7階建	6,564.96
		4号館	鉄筋コンクリート造・銅板葺・4階建	3,159.21
		集団給食実習館	鉄骨造合金メッキ鋼板ぶき平家建	380.70
		講堂兼体育館	鉄筋コンクリート造陸屋根2階建	1,803.57
		実技館	鉄筋コンクリート造陸屋根3階建	1,237.24
		学生会館	鉄骨造陸屋根2階建	2,213.27
岐阜聖徳学園高等学校	北舎		鉄筋コンクリート造陸屋根4階建	4,852.77
	南舎		鉄筋コンクリート造陸屋根4階建	6,452.13
	多目的会館		鉄骨造合金メッキ鋼板ぶき3階建	1,633.03
	クラブ室		コンクリートブロック造亜鉛メッキ鋼板葺平家建	394.20
	体育館		鉄筋コンクリート・鉄骨造ステンレス鋼板ぶき3階建	4,626.64
	プール管理棟		鉄骨造合金メッキ鋼板ぶき平家建	230.00
岐阜聖徳学園大学附属中学校	校舎		鉄筋コンクリート造陸屋根3階建	5,236.97
	体育館		鉄骨造合金メッキ鋼板ぶき平家建	853.52
	屋内プール		鉄骨造合金メッキ鋼板ぶき平家建	1,496.27
	部室棟		鉄骨造亜鉛メッキ鋼板葺2階建	201.60
岐阜聖徳学園大学附属小学校	校舎		鉄筋コンクリート造陸屋根3階建	3,534.33
岐阜聖徳学園大学附属幼稚園	園舎		鉄骨造セメント瓦葺2階建	1,119.49
	附1：園舎		木造かわらぶき平家建	178.86

Ⅱ 事業の概要

いまだ新型コロナウイルス感染症の終息が見通せず、教育研究活動や学生募集活動の実施にさまざまな制約を受けざるを得ない環境下においても、学生及び保護者から支持される教育の質を担保することが、教育の質を高め、ひいては受験生の増加に繋がるものと考え、令和3年度は限られた財源の中で、各設置校の特色を打ち出し魅力を高めるための施策や環境整備を優先的に行いました。

I 令和3年度の主な事業

※ 万円未満を四捨五入で表記しています。

[岐阜聖徳学園大学/岐阜聖徳学園大学短期大学部]

1. 教育の質の向上に向けた教育内容の充実

外国語学部フレッシュ海外体験プログラムの代替措置に係る経費	【 1,969万円】
経済情報学部におけるアセスメントテスト実施に係る経費	【 101万円】
看護学部多職種連携ハイブリッドシミュレータ導入に係る経費	【 541万円】

2. 研究活動の推進

外国語学部論集の出版に係る経費	【 258万円】
台湾法鼓文理学院との学術交流（仏教文化）等に係る経費	【 84万円】

3. 国際交流の推進

日本大学連合学力試験（JPUE）による留学生獲得に係る経費	【 149万円】
ロンドン大学サマープログラムへの学生派遣に係る経費	【 33万円】

4. 学生支援の強化

看護学部の国家試験対策事業に係る経費	【 392万円】
障がい学生支援事業に係る経費	【 50万円】
看護実習に伴うPCR検査実施に係る経費	【 133万円】
短期大学部によるフレッシュマンキャンプ実施に係る経費	【 10万円】
両キャンパス学生食堂運営協力金に係る経費	【 856万円】

5. 学校施設・設備の整備

羽島キャンパス7号館全館照明LED化に係る経費	【 3,451万円】
羽島キャンパス有料駐車場全面舗装に係る経費	【 1,210万円】
羽島キャンパス5号館トイレ洋式化改修に係る経費	【 1,023万円】
羽島キャンパス総合体育館照明LED化に係る経費	【 427万円】
羽島キャンパス第1学生会館給水配管漏水改修に係る経費	【 385万円】
羽島キャンパス総合体育館排煙窓等修繕に係る経費	【 88万円】
岐阜キャンパス2号館空調設備更新に係る経費	【 1億2,980万円】
岐阜キャンパス電話交換機更新に係る経費	【 616万円】
岐阜キャンパス1号館キュービクル更新に係る経費	【 484万円】
岐阜キャンパス学生会館シャッター修繕に係る経費	【 325万円】
岐阜キャンパス体育館照明LED化に係る経費	【 264万円】
両キャンパス新証明書発行機導入に係る経費	【 1,332万円】

6. 情報環境設備の整備

羽島キャンパス講義室A V機器更新に係る経費	【 2, 193万円】
羽島キャンパスネットワーク機器更新に係る経費	【 1, 969万円】
情報端末必携化に伴うインフラ整備に係る経費	【 1, 331万円】
岐阜キャンパスネットワーク機器増設に係る経費	【 1, 950万円】
岐阜キャンパス340自習室情報機器更新に係る経費	【 1, 298万円】
岐阜キャンパス講義室A V機器更新に係る経費	【 433万円】
ファイルサーバー更改に係る経費	【 330万円】

7. 課外教育活動の推進

岐阜キャンパス屋内運動場建設に係る経費	【 1億6, 164万円】
羽島キャンパス南グラウンド人工芝敷設に係る経費	【 9, 900万円】
聖徳学園野球場用駐車場設置に係る経費	【 2, 354万円】
聖徳学園野球場スポーツトラクター購入に係る経費	【 383万円】
硬式野球部全日本大学野球選手権大会出場に係る経費	【 465万円】

8. 戦略的広報活動の推進

学生募集力強化ソリューションに係る経費	【 1, 397万円】
大学案内等発送作業に係る経費	【 1, 045万円】
オンライン入学手続システムの導入に係る経費	【 399万円】
大学院研究室紹介冊子作成に係る経費	【 73万円】

9. 奨学金制度の充実

岐阜聖徳学園大学スカラシップ選奨生奨学金に係る経費	【 1, 356万円】
岐阜聖徳学園大学課外活動奨励奨学金に係る経費	【 3, 350万円】
A O (Yawaragi) 入試実施による奨学金に係る経費	【 1, 214万円】

[岐阜聖徳学園高等学校]

1. I C T教育の推進

学習支援用タブレット端末通信料等に係る経費	【 2, 299万円】
I C T支援員の導入に係る経費	【 746万円】
外部インターネット接続用ネットワーク機器設置に係る経費	【 803万円】

2. 公的支援による人材育成の推進

ぎふグローバル人材育成支援事業に係る経費	【 316万円】
----------------------	----------

3. 英語教育の推進

J E TプログラムによるA L Tの採用に係る経費	【 455万円】
----------------------------	----------

4. 学校施設・設備の整備

北舎外壁改修に係る経費	【 3, 047万円】
野球場及びテニスコート土壌整備に係る経費	【 946万円】
自習室机等設備整備に係る経費	【 184万円】
プール及び体育館水中ポンプユニット取替に係る経費	【 292万円】
北舎水中ポンプ取替に係る経費	【 110万円】
消防用設備修繕等に係る経費	【 165万円】

[岐阜聖徳学園大学附属中学校]

1. ICT教育の推進

ICT支援員の導入に係る経費 【 404万円】

教員及び生徒用タブレット導入に係る経費 【 387万円】

2. 学校施設・設備の整備

フルカラー印刷機更新に係る経費 【 282万円】

体育館南側窓ブラインド取付に係る経費 【 380万円】

校舎漏水箇所調査に係る経費 【 57万円】

加圧給水ポンプユニット取替に係る経費 【 154万円】

3. 情報環境設備の整備

講堂プロジェクタ設備整備に係る経費 【 176万円】

[岐阜聖徳学園大学附属小学校]

1. ICT教育の推進

ICT支援員の導入に係る経費 【 404万円】

教員及び生徒用タブレット導入に係る経費 【 678万円】

2. 学校施設・設備の整備

フルカラー印刷機更新に係る経費 【 275万円】

3. 情報環境設備の整備

教室PC及び短焦点プロジェクタ更新に係る経費 【 476万円】

4. グローバル教育の充実

英語非常勤講師（ALT）増員に係る経費 【 312万円】

[岐阜聖徳学園大学附属幼稚園]

1. 学校施設・設備の整備

園舎建具改修及び園庭排水工事に係る経費 【 736万円】

園舎各教室空調機器更新に係る経費 【 682万円】

2. 情報環境設備の整備

教員用タブレット導入に係る経費 【 83万円】

[学園全体]

1. 学園事務システムの整備

学園事務システム情報機器更新に係る経費 【 8,017万円】

2 主な施設・設備事業内容

(1) 施設関係

[岐阜聖徳学園大学]

- 岐阜C 屋内運動場建築工事
- 羽島C 南グラウンド人工芝敷設工事
- 羽島C 7号館全館及び総合体育館照明LED改修工事
- 聖徳学園野球場用駐車場設置工事
- 羽島C プリペイドカード式有料駐車場全面舗装工事
- 羽島C 5号館トイレ改修工事
- 羽島C 4号館1階売店空調機入替工事
- 羽島C 第1学生会館給水配管改修工事

[岐阜聖徳学園大学短期大学部]

- 岐阜C 2号館空調設備更新工事
- 岐阜C 1号館キュービクル更新工事

[岐阜聖徳学園高等学校]

- 第2グラウンド整備工事
- 北舎外壁改修工事

[岐阜聖徳学園大学附属中学校]

- 体育館暗幕カーテン取付工事

[岐阜聖徳学園大学附属幼稚園]

- 園舎建具改修工事
- 園庭排水工事
- 正面玄関門扉電気錠工事

(2) 設備関係

[法人本部]

- 事務システム（法人系）ソフトウェア
- 学園事務システム情報機器

[岐阜聖徳学園大学]

- 羽島C 7・8・9号館講義室AV機器更新
- 羽島C 全館ネットワーク機器更改
- 羽島C 情報端末必携化に伴う情報インフラ整備（印刷環境）
- 羽島C ファイルサーバ更改
- 羽島C 看護学部多職種連携ハイブリッドシュミレータ導入
- 羽島C グランドピアノ
- 岐阜C 岐阜Cネットワーク増強
- 岐阜C 講義室AV設備更新
- 岐阜C 340自習室情報機器更新
- 岐阜C 屋内運動場内ピッチングマシン・ボール自動供給機
- 聖徳学園野球場用スポーツトラクター
- 岐阜C 電話交換機更新
- 岐阜C 学生会館厨房機器
- 岐阜C ファイルサーバ更改
- 羽島・岐阜C 新証明書発行機導入費
- 事務システム（法人系）ソフトウェア

[岐阜聖徳学園大学短期大学部]

講義室AV機器

事務システム(法人系)ソフトウェア

[岐阜聖徳学園高等学校]

自習室用机、椅子

インターネット接続用ネットワーク機器

エアコン取替

事務システム(法人系)ソフトウェア

[岐阜聖徳学園大学附属中学校]

フルカラー印刷機

講堂プロジェクター設備

スポットクーラー

事務システム(法人系)ソフトウェア

[岐阜聖徳学園大学附属小学校]

フルカラー印刷機

一般・特別教室PC及びプロジェクター更新

事務システム(法人系)ソフトウェア

[岐阜聖徳学園大学附属幼稚園]

空調機器更新

A I 温度検知ソリューション (非接触体温計)

事務システム(法人系)ソフトウェア

3 主な事業の目的・計画及びその進捗状況

令和3年度は、ウィズコロナの環境下において、安心安全に学校が運営できるよう、新型コロナウイルス感染症対策を徹底しつつ、これまでの経験を活かし、遠隔授業等を活用しながら、学生にとって安心・安全な教育研究環境の整備に努めました。今後も新型コロナウイルス感染症対策が長期に亘ることも想定し、教育の質を維持するための取り組みを推進します。

今年度の主な事業は、以下のとおり。

岐阜聖徳学園大学／岐阜聖徳学園大学短期大学部

[教育方針]

仏教精神を理想とする人格の完成をめざし、高い志とグローバルな視野を有して、生きる力と環境適応力によって未来を切り拓き、社会に貢献できる学徳兼備の人材の育成に努めます。

[事業の状況]

教育の質の向上

- Society5.0(超スマート社会)の実現に向けた技術革新が進展するなかでAIの研究開発やAI関連の人材育成が求められている。このことから、データサイエンス・AIを理解し、社会で活用できる人材を育成するため、デジタル社会の基礎知識である「数理・データサイエンス・AI」に関するカリキュラムを令和3年度から大学において導入した。

令和4年度からは、デジタルトランスフォーメーション(DX)推進センターを設置するとともに、短期大学部を含めた全学部で数理・データサイエンス・AI教育(リテラシーレベル)プログラムを導入して、数理・データサイエンス・AIを道具として活用し、社会に貢献できる人材を育成することとしている。

- 各学部・研究科レベルにおいて、クリスタルプランにおける13視座(教育学部)やTOEIC L&Rテスト(外国語学部)、実習要件の単位取得(看護学部)、就職率(経

済情報学部)、資格取得率(短期大学部)などにより、学修成果を把握している。

第3期教育振興基本計画等において、客観的な根拠を重視した教育政策の推進が示されており、教育政策においてPDCAサイクルを確立し、十分に機能させることが必要であるため、本学ではアセスメントプランを策定した。

- 教育学部、外国語学部、及び経済情報学部は、推薦入試合格者に対して、また、看護学部は、入学予定者全員を対象として、全学部で入学前準備通信添削システム等を導入し、学習習慣維持のため入学前教育を行っている。

また、全学部1・2年に必修科目である「基礎セミナー」を導入し、学習リテラシー（読み・書き・プレゼン）能力・人間関係能力形成を通して、学習へのモチベーションを養うことにしている。

- 所属学部に関係なくいろいろな学部の学生が集まり、一緒に知恵を出しあって考えることで広い視野や共感性を身につけることを目的に行っている学部横断型の教養教育「Yawaragi Basis」を全学部への拡大し、SDGsに関連した科目のSDGsマッピングを行った。
- 3歳未満児の教育の重要性が指摘される一方で、年齢の低い子どもとの関わり経験の無い学生が多くなってきている。市の委託により本学が運営する地域子育て支援センターくれまちすの活動に学生が参加することで、年齢の低い子どもや幼い子を持つ保護者との関わりを持つ機会が得られ、学生にとって貴重な経験となっている。

また、育児不安の解消や子ども・親どうしが交流できる場を提供することにより、岐阜市南部地域においての子育て支援の拠点としての役割を果たしている。

- 短期大学部においては、新入生同士、あるいは新入生と教職員、在学生との親睦を深め、教務、学生生活に関する不安の解消を図り、スムーズな学生生活のスタートを支援することを目的に、平成28年度からフレッシュマンキャンプを実施している。例年学外施設において一泊二日のスケジュールで行っているが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、今年度は半日開催に変更し、学内（多目的ホール・体育館）において実施した。なお、新入生は全員出席であった。

幼児教育では、人との関わりやコミュニケーションが大切となるため、本事業のように早い段階から集団活動を経験させることが重要であり、新入生の学習意欲の向上や退学率の低下に繋がっていることから、次年度以降も適切な実施方法を検討しながら継続していく。

入試制度改革と募集戦略

- 昨年度から高大接続改革として入試に多面的・総合的評価が求められることとなり、令和3年度も総合選抜型 Yawaragi 方式により、受験生の学力の3要素（①知識・技能 ② 思考力・判断力・表現力 ③ 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）を評価する入学者選抜を実施した。

また、令和3年度も質の高い生徒の受験を目的として、昨年度にスタートした大学入学共通テストに参画し、大学入学共通テストを用いた入学者選抜を実施した。

- 優秀な外国人正規留学生の獲得を目指し、平成28年度より「日本大学連合学力試験 (JPUE)」に参画して香港在住の高校生とテレビ面接を実施し、さらに平成30年12月からは香港に出向き高校生と直接面接を行うとともに、留学生専用寮を整備して募集活動を行った結果、令和2年4月には男子1名・女子1名が入学した。

令和2年12月からの募集活動は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響によりオンライン面接のみとなったが、学生サポーターによる入国後の生活全般の支援体制を構築するなど体制を整備した結果、令和3年4月には男子1名・女子1名、令和4年4月は男子3名・女子1名の入学につなげることができ、着実に留学生の受入が進みつつある。

- 学生スタッフ（オープンキャンパスアドバイザー）の組織化（育成）を行い、学生スタッフが中心となってオープンキャンパスを運営することにより、志願者に本学の本当の姿を理解し受験してもらうことを目指した。
- 令和2年度に新規導入したオンライン入学手続システムにより、出願から入学手続きまでの一連の手続きの大半がWEB上で可能となり、受験生の利便性が向上した。

今後は、さらに合格通知のオンライン化を検討したい。

学生支援の充実

- 「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」に基づき、大学における障害のある学生に対する差別的取扱いの解消を推進するため、学内における教職員向けFD、SD研修会を実施するとともに、障害学生支援規程等の策定、合理的配慮を求める学生に対する対応マニュアルの策定、学生サポーターの育成を行っている。

学生支援センターを設置して、保健室、学生相談室、障害学生支援室の3室が連携し、学生の心身両面での健康促進増進をはかり学生生活を支援するとともに、障害の有無に関わらず全ての学生が、適正な環境のもとで学生生活が送れるよう修学

支援に取り組んでいる。

また、昨年度まではハード面のユニバーサルデザイン化に努めてきたが、今年度は、視覚障害のある学生には教科用図書のデジタル化を、聴覚障害のある学生には、オンライン授業を支障なく受講できるよう学生サポーターが授業動画に字幕付けを行ったり、UD トークの変換率を上げるための研究を行い、学生のパソコンにケーブルを繋げることにより音声の拾い漏れの解消を実現するなど、ソフト面の充実に努めた。

国際交流の推進

- コロナ禍の終息が見えない中で、昨年度に引き続き、令和3年度も海外留学や外国語学部のフレッシュ海外研修プログラムなど海外渡航を伴う事業の実施は叶わない状況であったが、学生の学びの機会を奪わないよう、本年度入学生に加え昨年度入学生も対象として、オンラインにより、「英語レッスンを中心としたバーチャルホームステイとバーチャル観光」、「海外の大学で学ぶグローバル研修」、「海外インターンシップ研修」、「SDGs グローカル研修国際交流」といった多彩なコースを用意して研修を実施した。

実施後のアンケート結果からは学生の高い満足度がうかがえ、単なる語学研修以上のプログラムに参加することで、海外へ出かけるのとは別の有意義な学修が実現し、参加した学生に大きな学びと強い動機付けを残すことができた。

- 令和元年度から始めた UCL（ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン）サマープログラムへの学生の派遣は、昨年度は海外留学がすべて中止になり実現できなかったが、令和3年度は外国語学部4年生1名が参加（オンラインによる実施）できた。

継続的に学生を派遣することにより、本学学生の質の高さを示すことができ、将来的な留学プログラムの開発及び大学間協定につながるものと考えている。

教育環境の整備・充実

- 岐阜キャンパスに屋内運動場を設置し、教育環境の充実を図った。

この施設の完成により、天候や時間に左右されることなく、授業や課外活動の実施が可能となった。

また、隣接する多目的コート及びトレーニングスタジオとの併用で、多数の部員が分散して練習することができるようになったため、学生への平等な練習機会の確保と効率的な練習が可能となり、硬式野球部、男女ソフトボール部、岐阜聖徳学園

高等学校硬式野球部といった強化指定クラブをはじめとした課外活動の強化発展が期待される。

- 羽島キャンパス南グラウンドの全面に人工芝を敷設した。

この整備により、体育の授業はもとより、学園の強化指定部の一つであるサッカー一部の活動において、天候に左右されにくい練習環境が整うとともに、学生の怪我のリスクの低減が期待でき、環境の充実を図ることができた。

また、地域のスポーツ拠点として、近隣の学校や住民に活用してもらうことにより、地域連携・貢献に寄与できるものと期待する。

- 令和3年4月から新しい教学・学生サポートシステムが稼働し、学生がポータルサイト内で大学からの連絡や授業の連絡を受信できるようになり、学生の学修上の利便性が向上した。

- コロナ禍を経験した今、今後いかなる環境においても支障なく授業が行えるよう、遅延のない高速通信を実現しながら、遠隔授業・分散授業に対応でき、小規模講義室や研究室など、これまで Wi-Fi が届きづらいエリアでも自学自習を可能とする環境を整えるため、羽島・岐阜の両キャンパスにおいて、高規格の LAN ケーブルの引き直しや無線 LAN アクセスポイントの増強を実施した。

また、最新のデジタル機器や遠隔配信機器との接続を容易にするため AV 機器をアナログ仕様からデジタル仕様へ更新するとともに、ハイフレックス型授業で対面とオンラインのどちらでも授業が受講できるよう、遠隔授業配信システムの整備を行った。

今後、電子教科書の導入など学修環境の更なる高度化を目指す。

- 大学コンピュータ教室更新計画に基づき情報機器の更新を実施する中で、学生の情報端末必携化に向けた BYOD 環境の整備を踏まえ、デスクトップパソコンは問題なく授業が進められるようにメンテナンスを実施したうえで更新を控える一方、授業における一人一台ノート型 PC の利用に備えるため、羽島および岐阜の両キャンパスに電源設備を備えたノートパソコン専用ロッカーを整備すると共に貸出用ノート型 PC の増台を図った。

さらに、個人所有のパソコンを接続して利用が可能となるよう、ネットワーク環境の整備や、学生が持ち込んだノート型パソコンからもパソコン教室設置のプリンタへの印刷を可能とするシステムの導入を行った。

- 岐阜キャンパス2号館全館の空調設備の更新を行った。

この更新により、授業をはじめ、オープンキャンパスや入学試験等の学校行事の

みならず、施設貸出しによる外部利用者も含め、全ての利用者が快適な環境下において施設を利用することが可能になった。

また、最新の空調設備の導入により、経費や環境負荷の削減への貢献も期待できる。

- 羽島キャンパスプリペイドカード式有料駐車場のアスファルト全面舗装を行った。

従来の砂利敷きに比べて、駐車場の路面状態が格段に向上し、料金を支払う利用者の納得を得られる環境が整った。

今回の整備により、施設の外部利用の増加も期待できる。

- 羽島キャンパス7号館全館、総合体育館及び岐阜キャンパス講堂兼体育館の照明器具のLEDへ更新を行った。

格段に照度が向上したことにより、授業や課外活動等の学校行事において学生の健康面や安全面での環境の向上を図ることができるとともに、電球の交換頻度の減少や電気料金の削減により、経費や環境負荷の削減への貢献も期待できる。

LED化未実施の施設について、今後も計画的にLED化への転換を進めていく。

高大連携・地域貢献

- 社会人の学び直しの機会の充実を図るため、公開講座の充実や体系的な教育プログラム（履修証明プログラム）を導入し、多様な層への学習機会の提供を図っている。
- 平成31年4月より単位制を導入した岐阜県立羽島北高等学校と本学の間で昨年度から実施している高大連携事業では、同校の生徒が、本学の施設・設備を利用しながら本学教員の実践的な講義を受けることによって専門的な知識や技術を習得しており、大学での学びが高校での単位となる県内初の取り組みとなっている。
- 持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals:SDGs）が掲げる「誰一人取り残さない」という世界共通理念は、本学の建学の精神である「平等」（皆かけがえのない尊いいのちを持つことに気づくこと）、「寛容」（あらゆるいのちの個性を受け入れ共感すること）、「利他」（あらゆるいのちに奉仕すること）に通じるものであるため、本学では、「岐阜聖徳学園大学における持続可能な開発目標に資するための方針・行動目標」及び「SDGs実施方針」を策定し、教育・研究・社会貢献に資するための取り組みを全学的に推進している。

- 岐阜県からの委託を受け、離職者などの求職者に対して「保育士（国家資格）」の資格取得を目指す２年間のコースを開設し、正規学生として受け入れている。

就職支援の充実

- 教育学部においては開学以来４０年以上にわたる実績に裏付けられたノウハウのもと、教員経験者による講義、充実した採用試験対策講座や面接対策など、現場に結びつく質の高い支援を提供しており、これまでも全国トップクラスの教員就職率を維持しているが、昨年度から設置した教職指導室の人員をさらに拡充し、さらなる支援の充実を行った。２０２２年３月卒業生も教員就職率が７８．７％と、全国トップクラスの結果を残すことができた。

岐阜聖徳学園高等学校

〔教育方針〕

すべての生徒が「よき市民として卒業すること」を学校教育目標とする。具体的には、釈尊、親鸞聖人の教えや歩みを通して、人としての生き方（自己肯定感と品格）を考え、自己を振り返り、社会の一員として行動できる人を育てる。

（教育の3つの柱）

- ・ 自立…生涯を通して真理と理想を求め、豊かな発想を持ち、客観的に判断し行動できるような「自立して生きる力」を育てます。
- ・ 共生…人とつながる中で、生命を大切にし、他の存在を認め、感謝と奉仕の心をもって「共に生きる力」を育てます。
- ・ 学び…一人ひとりの学びや問いがつながり、広がり、深化する学び方を大事にします。

（5つの重点項目）

- ・ 未来を拓く進路実現
将来の夢を叶えるために大切なのは、自分らしく生きること。一人ひとりの夢の実現をきめ細くサポートします。
- ・ 生きる力が身につく学校
机上の勉強だけでなく、新しいことにチャレンジし、新たな自分を発見する意欲を重視します。
- ・ 学び合う学校
一人ひとりの学びや問いがつながるとおもしろい。教師や仲間と学び合い議論し合う機会をつくり知的好奇心を育てます。
- ・ 共に生きる空間づくり
クラスや部活動など、学校生活ならではの空間で自分を磨き、思いやりの心をもつ生徒を育てます。
- ・ 三者で学校づくり
学校づくりは、生徒・保護者・教師が互いにパートナーとなって進めるものと考え、理想の学校を三者で創り上げていきます。

[事業の状況]

教育の質の向上

- 本校では、令和元年度から入学生全員にタブレット端末の配付を始め、今年度にはすべての生徒に1人1台のタブレット端末の配付が完了した。

生徒への配付に先駆けて平成30年度から非常勤講師を含めた全教員にタブレット端末を配付し、学校をあげていち早くICT教育を推進してきた結果、オンライン授業、家庭での個別学習、教材の配付や行事の分散開催など質の高い教育を提供することができ、コロナ禍においても学校活動への影響を最小限に留めることができた。

また、令和3年度の学校見学会はコロナ禍で通常開催が難しい状況であったため、中学生一人一人にタブレット端末を用意して本校のICT授業を体験してもらう形で実施し、結果的に本校の特色を中学生に理解してもらう良い機会となった。

県内外の教育関係者を対象に開催しているICT公開授業は今年度で3回目を数えるが、今後も研究を進め得られた成果を積極的に情報発信していきたい。

- 学習指導要領では、生徒が英語を通じて積極的にコミュニケーションをとることが出来るよう、聞く・話す・読む・書くなどの4技能を総合的に指導することが定められている。

本校では、生徒の英語発音や国際理解の向上のため、JETプログラムにより派遣されたALTが、教科担任とともにチームティーチングにより授業を担当している。

また、正課授業以外の英語プレゼンテーションや英語ディベート大会、レシテーション大会でのネイティブチェックも実施している。

特に生徒の聞く・話す能力の向上への寄与が認められるため、今後も継続してALTを活用していきたい。

教育環境の整備・充実

- 今年度全ての生徒にタブレット端末の配付が完了して、1,000台余りの端末がネットワーク機器に接続することで、使用率が上限に達する状況が発生する頻度が高くなったため、通信環境の安定化を図るべく、インターネット接続用ネットワーク機器の増強を行った。

これにより、校内での授業がストレスなく行えるようになったほか、全生徒が一

堂に会さなくても全校集会などの学校行事が可能となり、コロナ禍終息後も情報機器を安定的に利用できる環境が整備できた。

- 部活動で使用する野球場及びテニスコートの改修工事を行った。

これによって、雨天後も速やかに活動できることから練習時間の確保に繋がり、施設の改善により練習の質向上と怪我のリスクの低減が図られた。

この施設を利用する硬式野球部は学園から強化指定されており、今後の強化発展が期待される。

岐阜聖徳学園大学附属中学校

〔教育方針〕

【校 訓】 平 等 ・ 寛 容 ・ 利 他

「仏教の教え」をよりどころとして、健康でものごとの本質を見極める賢さを持ち、社会から信頼され、世界で活躍できる智慧と慈悲の心を身に着けた人材を育てる。

- ・ 社会力(他者理解を深め、今を変えていく力)を身につけ、自律した生徒を育てる。
- ・ 生涯にわたって「自ら学ぶ力」を身につけ、自主自立の精神を育てる。
- ・ 生かされていることに感謝し、自らの命や人生を他者のために役立てる謙虚な生き方のできる人材を育成する。

〔事業の状況〕

教育の質の向上

- 「GIGA スクール構想」に基づき、本校では1年生から順次、1人1台のタブレット端末の配付を計画し、令和3年度は教員と新入生全員にタブレット端末の配付を行った。

新型コロナウイルス感染症の拡大によって学校活動に大きな制約を強いられる

こととなったが、1年生においては、タブレット端末の配付によりオンライン授業や自宅での個別学習、生徒と教員双方向での状況確認が可能となった。

また、同時に ICT 支援員を採用したことにより、タブレットやアプリの活用法の教授、急な設定変更やトラブル回避が可能となり、質の高い授業を保障できたと考えられる。

令和4年度以降も、学年進行により新入生全員にタブレット端末を配付し、令和5年度にはすべての生徒がタブレット端末を持ち、校内外で情報機器を活用できる体制を構築する予定である。

教育環境の整備・充実

- 講堂プロジェクター設備更新を行った。

プロジェクター等の更新により高照度の投影が可能となり、生徒たちは照明をつけた明るい講堂内でスクリーン上の教材を見渡しつつノート作りをすることができるようになった。

また、「アップル TV」と zoom を組み合わせることで、卒業式や入学式、宗教行事等の学校行事を他の教室に同時配信し、三密を回避しながら全校行事を行うことが可能となった。

- フルカラー印刷機を更新した。

授業資料や学級通信、広報資料などの作成において、高速かつ鮮明な高品質での印刷が可能になり、業務の効率が向上したうえ、更新前の機種よりランニングコストが安価なため、経費の削減にも貢献した。

岐阜聖徳学園大学附属小学校

[教育方針]

建学の精神を基調にすると共に、宗門関係学校・大学教育学部附属校・私立小学校としての3つの使命を具現化していくことをねらい、学校の教育目標を次のように掲げています。

優しく、強く、賢さのふくらむ、み仏の子

- ・やさしい子…自分を見つめ、仲間にやさしくできる（寛容）
- ・つよい子……できるまで、あきらめない（創造）
- ・かしこい子…自分で感じ、考え、見つけていく（自主・健康）

県内最初に設立された私立小学校としての誇りと使命感を持ち、子どもの目線に立って子どもに寄り添い、一人一人の学力と個性（よさと可能性）を伸ばす学校

[事業の状況]

教育の質の向上

- 「GIGA スクール構想」に基づき、本校では1年生と4年生から順次、1人1台のタブレット端末の配付を計画し、令和3年度は教員と新入生全員及び4年生全員にタブレット端末の配付を行った。

新型コロナウイルス感染症の拡大によって学校活動に大きな制約を強いられることとなったが、1年生と4年生においては、タブレット端末の配付によりオンライン授業や自宅での個別学習、児童と教員双方向での状況確認が可能となった。

また、同時にICT支援員を採用したことにより、タブレットやアプリの活用法の教授、急な設定変更やトラブル回避が可能となり、質の高い授業を保障できたと考えられる。

令和4年度以降も、学年進行により新入生と新4年生にタブレット端末を配付し、令和5年度にはすべての児童がタブレット端末を持ち、校内外で情報機器を活用でき体制を構築する予定である。

- 本校では、国際理解教育の一環として、英語教育を全学年共通して週3時間実施している。

英語教育の質を担保するため、今年度ALTを1名増員し2名体制とした。

ALT増員によって、低学年と高学年担当に分かれて、児童の発達段階を把握しつつ指導内容や指導方法の一貫性を保ちながら指導にあたることが可能になったため、児童の英語に対する抵抗をなくし、技能表現力を身に付けることができるようになったと考えている。

教育環境の整備・充実

- フルカラー印刷機を更新した。

授業資料や学級通信、広報資料などの作成において、高速かつ鮮明な高品質での印刷が可能になり、業務の効率が向上したうえ、更新前の機種よりランニングコストが安価なため、経費の削減にも貢献した。

- 本校では、全教室に無線LANを整備しており、タブレット端末をネットワークに接続することができる。そのタブレット端末を利用して児童一人ひとりが学習の考えをまとめたり、学習の様子を撮影したりして学習を進めている。その学習の経過を教師が確認したり、仲間と見せ合いながら交流したりすることで学習を深めている。

さらに、各児童のタブレット端末の画面をホワイトボードに映し出し、個々が調べた内容や考えをクラス全員で共有できる環境を整えるため、今年度は各教室のプロジェクターを短焦点の機種に更新した。

児童自身が自ら調べたり考えたりした情報をクラス全体に発信し、個々の考えを学級の中で共有することによって、自分の考えとの違いや、仲間の考えのよさを発見し感じることができるようになった。

岐阜聖徳学園大学附属幼稚園

[教育方針]

- ・子どもなりの考えや判断での行動を温かく支援する中で、個の自立や主体性の高まりを大切にする。
- ・遊びを大切にした生活の中で、発達段階を踏まえながら個に対応した総合的な支援をすると共に、仲間遊びの楽しさを実感させる場の提供と支援に努める。
- ・自然の美しさや不思議さに気付きながら、感動体験を重視した保育に努める。そのために多様で豊かな活動の創造を目指す。
- ・小学校教育との連携を視野に入れ、基本的生活習慣の育成や集団生活の基礎を培う。

[事業の状況]

教育の質の向上

- 教員用タブレットを導入した。

欠席・遅刻・早退・バス利用の有無などについて、バスキャッチシステムを用いて保護者からの情報を一人一人のタブレットでタイムリーに確認できるようにした。

タブレットで保育中の様子を写真やビデオとして記録し、園生活の様子をリアルタイムで保護者に配信することが可能になった。

情報の正確性、対応の確実性・迅速性が増すことで、保護者からの信頼をより高めることができる。

終息の見えないコロナ禍にあっても、タブレットを用いた保育参観、個人懇談等が可能になる。

教育環境の整備・充実

- 園舎各教室に設置してある空調機器を更新した。

園児や保護者、教職員が快適な環境下において園生活や行事を行うことが可能になった。

また、最新の空調設備の導入により、経費や環境負荷の削減への貢献も期待できる。

- 既存の門扉を、オートロックで解錠・施錠できるものに更新した。

オートロックの門扉になったことで、部外者が安易に侵入できなくなるとともに園児が勝手に園外に出る危険性もなくなって安全性が向上したため、保護者の満足度が高まった。

- 園舎南側の建具を木製からアルミ製のものに更新するとともに、園舎脇園庭の排水溝を改修し排水状況を改善した。

これにより、荒天時においても園庭が冠水する頻度が低くなり、園舎内に風雨が入り込むこともなくなって、安心・安全な施設に改善できた。

Ⅲ 財務の概要

～令和３年度決算にあたって～

令和３年度は、ウィズコロナの環境下において、安心安全に学校が運営できるよう、新型コロナウイルス感染症対策を徹底しつつ、これまでの経験を活かし、遠隔授業等を活用しながら、学生にとって安心・安全な教育研究環境の整備に努めました。今後も新型コロナウイルス感染症対策が長期に渡ることも想定し、教育の質を維持するための取り組みを推進します。

また、時代の要請に応えるべく教育・研究の質を向上させるため、重点事業として掲げた本学園の中期計画となる「学校法人聖徳学園将来構想グランドデザイン60th」の施策を実現するために特定資産を積み立て、財政基盤の強化に取り組みました。

決算状況は、事業活動収入の増加を見込むことが厳しい現状の中で、事業計画の重要性、実効性のあるものを重点に予算を執行してきた結果、基本金組入前当年度収支差額のプラスを維持することができました。

については、学校法人聖徳学園が社会のニーズに的確に対応し、社会に貢献しうる学園として永続的に発展できるよう、財政の安定を目的に学園全体で危機感を共有し、経費の削減を実施し、創立60周年、そしてその先を見据え、競争力を強化し、魅力ある学園とするため引き続き財務の健全経営に向けて取り組んでまいります。

1 資金収支計算書 ―令和３年度決算と令和２年度決算との対比―

資金収支計算書は、その会計年度（令和3年4月1日から令和4年3月31日）の教育研究活動に対応する資金調達（資金収入）と資金の使途（資金支出）のすべてを明らかにすることを目的としています。

【資金収入の部】

（１）学生生徒等納付金収入

前年度比 1億5,886万円減の 47億6,215万円となりました。

学園全体の学生・生徒等総数は前年度比 59名減の 4,958名となり、学生生徒等納付金収入の部門別前年度比では、岐阜聖徳学園高校 1,087万円、附属小学校 173万円の増となりましたが、大学 1億3,341万円、短期大学部 2,483万円、附属中学校 1,130万円、附属幼稚園 192万円の減となりました。

（２）手数料収入

前年度比 225万円増の 1億1,665万円となりました。

この科目の主たる収入は、令和４年度入学志願者の入学検定料収入であり、前年度比 178万円増、また、試験料収入は、前年度比 30万円増となりました。

（３）寄付金収入

前年度比 687万円増の 4,620万円となりました。

TeamSHOTOKU60寄付金事業、大学後援会及び附属学校育友会などから寄付金があり、特別寄付金収入は前年度比 78万円減となりましたが、一般寄付金収入は前年度比 766円増となりました。

（４）補助金収入

前年度比 3,666万円減の 11億2,481万円となりました。

令和３年度は、修学支援新制度補助金の増加はあるものの学生・生徒数の減少により、私立大学等経常費補助金などの国庫補助金収入は、前年度比 1,002万円減、また、岐阜県私立学校教育振興費補助金などの地方公共団体補助金収入は、前年度比 2,664万円減となりました。

(5) 資産売却収入

前年度比 8,462万円減の 3億3,725万円となりました。

これは、投資信託などの資金運用を行った結果、有価証券売却収入が前年度より減額したことによるものです。

(6) 付随事業・収益事業収入

前年度比 243万円減の 9,541万円となりました。

これは、子育て支援事業などの受託事業収入が、前年度比 243万円減となりました。

なお、聖徳自動車学園からの収益事業収入は、前年度同額の 2,000万円となりました。

(7) 受取利息・配当金収入

低金利水準環境が続く中、安全性を最優先とした資金運用を行った結果、前年度比 811万円増の 2,082万円となりました。

(8) 雑収入

前年度比 4,545万円増の 2億1,814万円となりました。

増加の要因は、退職金の財源となる私立大学退職金財団（社団）からの交付金収入が前年度比 1,781万円増、また、施設設備利用料収入が前年度比 3,033万円増となったことによるものです。

(9) 前受金収入

前年度比 1,942万円減の 8億2,940万円となりました。

令和4年度の入学金前受金収入が前年度比 1,347万円減、また、授業料等前受金収入は前年度比 595万円減となりました。

(10) その他の収入

前年度比 4,707万円減の 3億8,939万円となりました。

仮受金収入は前年度比 4,693万円増となりましたが、前期末未収入金収入（退職者に伴う退職金財団（社団）交付金収入等）は前年度比 3,616万円減、預り金受入収入は前年度比 5,943万円減となりました。

【資金支出の部】

(1) 人件費支出

前年度比 7,087万円増の 37億7,332万円となりました。

学園全体の教職員数は前年度比 1名減の 393名となり、教職員人件費の部門別前年度比で、岐阜聖徳学園高校 1,131万円、附属中学校 817万円の減となりましたが、法人本部 1,433万円、大学 4,212万円、短期大学部 852万円、附属小学校 1,559万円、附属幼稚園 75万円の増となりました。

また、退職金支出は、退職者が 21名で前年度比 903万円の増となりました。

(2) 教育研究経費支出

前年度比 3,176万円減の 14億7,404万円となりました。

主な科目の前年度比及びその要因は次のとおり。

- ・消耗品費支出：前年度比 1,342万円増の 1億8,634万円
- ・光熱水費支出：前年度比 1,698万円増の 1億4,991万円
- ・奨学費支出：前年度比 1億1,521万円減の 2億3,804万円
- ・修繕費支出：前年度比 2,668万円増の 7,946万円
- ・保守点検委託費支出：前年度比 1,550万円増の 2億6,682万円
- ・生徒輸送費支出：前年度比 3,167万円減の 1億9,893万円
- ・雑費支出：前年度比 2,030万円増の 7,912万円

(3) 管理経費支出

前年度比 2,555万円増の 4億1,810万円となりました。

主な科目の前年度比及びその要因は次のとおり。

- ・保守点検委託費支出：前年度比 1,151万円減の 6,264万円
- ・公租公課支出：前年度比 871万円増の 2,432万円
- ・広告料支出：前年度比 1,068万円減の 9,547万円
- ・賄費支出：前年度比 945万円増の 6,428万円
- ・雑費支出：前年度比 1,516万円増の 2,379万円

(4) 施設関係支出

前年度比 1億7,004万円増の 3億9,307万円となりました。

主な科目の前年度比は次のとおり。

- ・土地支出：前年度比 1,606万円減
- ・建物支出：前年度比 9,916万円増の 2億 904万円
- ・構築物支出：前年度比 1億6,861万円増の 1億8,403万円
- ・建物仮勘定支出：前年度比 8,166万円減

(5) 設備関係支出

前年度比 2,464万円減の 2億5,053万円となりました。

主な科目の前年度比は次のとおり。

- ・教育研究用機器備品支出：前年度比 1,176万円増の 1億5,173万円
- ・管理用機器備品支出：前年度比 2,360万円減の 2,297万円
- ・図書支出：前年度比 178万円減の 1,090万円
- ・ソフトウェア支出：前年度比 1,102万円減の 6,492万円

(6) 資産運用支出

前年度比 1億9,995万円減の 9億2,438万円となりました。

これは、資金運用を行った結果、有価証券購入支出が前年度比 1億9,980万円減となりました。なお、将来構想実現に向けた財源確保を目的とした特定資産に3億円を積立てています。

(7) その他の支出

前年度比 5,283万円減の 5億1,300万円となりました。

主な要因は、預り金支払支出が前年度比 6,934万円増となりましたが、前年度における前期末未払金支払支出（退職者に伴う退職金等）は、前年度比 1億 894万円減、また、仮受金支払支出が前年度比 1,227万円減となったことによるものです。

(令和3年度決算)

資金収支計算書

令和3年4月1日から
令和4年3月31日まで

【資金収入の部】

(単位:円)

科 目	令和3年度決算額	令和2年度決算額	増 減
学生生徒等納付金収入	4,826,775,489	4,921,014,410	△ 94,238,921
手数料収入	116,649,696	114,395,004	2,254,692
寄付金収入	46,202,948	39,330,120	6,872,828
補助金収入	1,124,808,109	1,161,467,285	△ 36,659,176
国庫補助金収入	485,618,872	495,639,486	△ 10,020,614
地方公共団体補助金収入	639,189,237	665,827,799	△ 26,638,562
資産売却収入	337,250,002	421,870,083	△ 84,620,081
付随事業・収益事業収入	95,412,853	97,839,715	△ 2,426,862
受取利息・配当金収入	20,823,406	12,711,195	8,112,211
雑収入	218,138,361	172,690,548	45,447,813
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	829,400,000	848,820,840	△ 19,420,840
その他の収入	389,392,639	436,461,349	△ 47,068,710
資金収入調整勘定	△ 1,028,220,466	△ 1,057,879,071	29,658,605
当年度資金収入合計	6,976,633,037	7,168,721,478	△ 192,088,441
前年度繰越支払資金	2,104,367,254	2,450,353,526	△ 345,986,272
収入の部合計	9,081,000,291	9,619,075,004	△ 538,074,713

【資金支出の部】

科 目	令和3年度決算額	令和2年度決算額	増 減
人件費支出	3,773,318,957	3,702,451,722	70,867,235
教育研究経費支出	1,538,665,939	1,505,806,223	32,859,716
管理経費支出	418,095,690	392,548,468	25,547,222
借入金等利息支出	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0
施設関係支出	393,073,242	223,034,299	170,038,943
設備関係支出	250,525,121	275,162,250	△ 24,637,129
資産運用支出	924,376,000	1,124,329,000	△ 199,953,000
その他の支出	513,004,629	565,838,042	△ 52,833,413
資金支出調整勘定	△ 322,599,524	△ 274,462,254	△ 48,137,270
当年度資金支出合計	7,488,460,054	7,514,707,750	△ 26,247,696
翌年度繰越支払資金	1,592,540,237	2,104,367,254	△ 511,827,017
支出の部合計	9,081,000,291	9,619,075,004	△ 538,074,713

当年度資金収支差額	△ 511,827,017	△ 345,986,272	△ 165,840,745
-----------	---------------	---------------	---------------

2 活動区分資金収支計算書

活動区分資金収支計算書は、資金収支計算書を「教育活動」、「施設整備等活動」と「その他の活動」の三つの活動区分に区分し、活動ごとの資金の流れを明らかにしたものです。

(1) 教育活動による資金収支の状況

「教育活動」の収入は、学生生徒等納付金収入、手数料収入、寄付金収入及び経常費等補助金収入などです。寄付金収入及び補助金収入のうち、施設設備に係る寄付金、補助金は、「施設整備等活動」の収入に区分されます。

「教育活動」の支出は、人件費支出、教育研究経費支出、管理経費支出です。

令和3年度の教育活動資金収入計は、63億915万円、教育活動資金支出計は、56億6,508万円で、差引6億4,407万円となり、調整勘定等876万円を加味した教育活動資金収支差額は、6億5,283万円となりました。

(2) 施設整備等活動による資金収支の状況

「施設整備等活動」の収入は、施設設備寄付金収入、施設設備補助金収入、施設設備売却収入です。

「施設整備等活動」の支出は、施設関係支出、設備関係支出、施設設備の整備を目的とした引当特定資産繰入支出です。

令和3年度の施設整備等活動資金収入計は、3,343万円、施設整備等活動資金支出計は、6億6,094万円で、差引△6億2,751万円となり、調整勘定等216万円を加味した施設整備等活動資金収支差額は、△6億2,535万円となりました。

また、教育活動資金収支差額と施設整備等活動資金収支差額の計は、2,747万円となりました。

(3) その他の活動による資金収支の状況

「その他の活動」の収入は、有価証券売却収入、受取利息・配当金収入及び収益事業収入などです。

「その他の活動」の支出は、有価証券購入支出及び学園維持引当特定資産繰入支出などです。

令和3年度のその他の活動資金収入計は、6億649万円、その他の活動資金支出計は、11億4,579万円で、その他の活動資金収支差額は、△5億3,930万円となりました。

以上の結果、支払資金の増減額は、△5億1,183円となり、前年度繰越支払資金21億437万円を加えた翌年度繰越支払資金は、15億9,254万円となりました。

(令和3年度決算)

活動区分資金収支計算書

令和3年4月1日から
令和4年3月31日まで

(単位 円)

科 目		金 額
教育活動による資金収支	収入	学生生徒等納付金収入
		4,826,775,489
		手数料収入
		116,649,696
		特別寄付金収入
		2,877,000
		一般寄付金収入
		24,430,000
		経常費等補助金収入
		1,110,457,259
		付随事業収入
		75,412,853
		雑収入
		217,169,411
	教育活動資金収入計 (A)	
	6,373,771,708	
	支出	人件費支出
		3,773,318,957
		教育研究経費支出
		1,538,665,939
		管理経費支出
		417,720,986
		教育活動資金支出計 (B)
		5,729,705,882
	差引 (C) = (A-B)	
	644,065,826	
	調整勘定等 (D)	
	8,759,251	
	教育活動資金収支差額 (E) = (C+D)	
	652,825,077	
施設整備等活動による資金収支	科 目	
	金 額	
	収入	施設設備寄付金収入
		18,895,948
		施設設備補助金収入
		14,350,850
		施設設備売却収入
		180,000
		施設整備等活動資金収入計 (F)
		33,426,798
	支出	施設関係支出
		393,073,242
		設備関係支出
		250,525,121
		施設設備維持引当特定資産繰入支出
		17,338,000
		施設整備等活動資金支出計 (G)
		660,936,363
	差引 (H) = (F-G)	
	△ 627,509,565	
	調整勘定等 (I)	
	2,159,301	
	施設整備等活動資金収支差額 (J) = (H+I)	
	△ 625,350,264	
	小計 (K) = (E+J)	
	27,474,813	
その他の活動による資金収支	科 目	
	金 額	
	収入	借入金等収入
		0
		有価証券売却収入
		337,070,002
		その他収入
		227,628,568
		小計
		564,698,570
	支出	受取利息・配当金収入
		20,823,406
		収益事業収入
		20,000,000
		その他収入
		968,950
		その他の活動資金収入計 (L)
		606,490,926
	支出	借入金等返済支出
		0
		有価証券購入支出
		604,038,000
		学園維持引当特定資産繰入支出
		300,000,000
		その他支出
		241,380,052
	小計	1,145,418,052
		借入金等利息支出
		0
		その他支出
		374,704
		その他の活動資金支出計 (M)
		1,145,792,756
	差引 (N) = (L-M)	
	△ 539,301,830	
	調整勘定等 (O)	
	0	
	その他の活動資金収支差額 (P) = (N+O)	
	△ 539,301,830	
	支払資金の増減額 (小計+その他の活動資金収支差額) (Q)	
	△ 511,827,017	
	前年度繰越支払資金 (R)	
	2,104,367,254	
	翌年度繰越支払資金 (S) = (Q+R)	
	1,592,540,237	

3 事業活動収支計算書 ―令和3年度決算と令和2年度決算との対比―

事業活動収支計算書は、収支を経常的収支（さらに教育活動と教育活動外に区分）と臨時的収支（特別収支）に区分し、それらのバランスを把握することを目的としています。

また、全体の収支差額である「基本金組入前当年度収支差額」から「基本金組入額」を差し引いた「当年度収支差額」として表示しています。

（1）経常収支（教育活動・教育活動外収支）の状況

学生生徒等納付金、手数料、寄付金、経常費等補助金などの教育活動収入計は、前年度比 1億3,719万円減の 63億1,288万円となりました。人件費、教育研究経費、管理経費などの教育活動支出計は、前年度比 1億1,487万円増の 64億 458万円となりました。教育活動収入計から教育活動支出計を差し引いた教育活動収支差額は、前年度比 2億5,206万円減の △9,170万円となりました。

- ・人件費は、前年度比 7,035万円増の 37億8,792万円。

（このうち、退職給与引当金繰入額は、前年度比 2,167万円増の 1億5,331万円となりました。）

- ・教育研究経費は、前年度比 252万円減の 21億2,770万円。

（このうち、減価償却額は、前年度比 2,030万円増の 6億5,080万円となりました。）

- ・管理経費は、前年度比 5,122万円増の 4億8,235万円。

（このうち、減価償却額は、前年度比 2,545万円増の 6,463万円となりました。）

一方、受取利息・配当金など教育活動外収入計は、前年度比 811万円増の4,082万円となりました。

教育活動収支差額と教育活動外収入計から教育活動外支出計を差し引いた教育活動外収支差額を合算した経常収支差額は、前年度比 2億4,395万円減の△5,088万円となりました。

（2）特別収支の状況

資産売却差額（設備売却差額及び有価証券売却差額）やその他の特別収入の特別収入計は、前年度比 1,097万円減の 1億 220万円となりました。

資産処分差額（設備除却差額及び有価証券処分差額）やその他の特別支出の特別支出計は、前年度比 2,638万円増の 4,722万円となりました。

特別収入計から特別支出計を差し引いた特別収支差額は、前年度比 3,735万円減の 5,498万円となりました。

（3）基本金組入前当年度収支差額

経常収支差額と特別収支差額を合算した基本金組入前当年度収支差額は、前年度比 2億8,130万円減の 410万円となりました。

（4）当年度収支差額・翌年度繰越収支差額

基本金組入額合計は、前年度比 1億 173万円増の 5億2,464万円となりました。増加の主な要因は、当期取得した固定資産の組入額が除却による取崩額より大幅に上回ったことによるものです。

基本金組入前当年度収支差額から基本金組入額合計を差し引いた当年度収支差額は、△5億2,054万円となりました。その結果、前年度繰越収支差額△61億7,763万円と基本金取崩額 5,914円を足した翌年度繰越収支差額は、△66億3,904万円となりました。

(令和3年度決算)

事業活動収支計算書

令和3年4月1日から
令和4年3月31日まで

(単位:円)

区 分 / 科 目	令和3年度決算額	令和2年度決算額	増 減
教育活動収支			
学生生徒等納付金	4,826,775,489	4,921,014,410	△ 94,238,921
手数料	116,649,696	114,395,004	2,254,692
寄付金	30,164,288	24,612,344	5,551,944
經常費等補助金	1,110,457,259	1,139,711,473	△ 29,254,214
付随事業収入	75,412,853	77,839,715	△ 2,426,862
雑収入	218,043,963	172,501,063	45,542,900
教育活動収入計 (A)	6,377,503,548	6,450,074,009	△ 72,570,461
人件費	3,787,919,101	3,717,571,594	70,347,507
教育研究経費	2,192,319,448	2,130,212,109	62,107,339
管理経費	482,352,568	431,136,750	51,215,818
徴収不能額等	6,612,000	10,793,000	△ 4,181,000
教育活動支出計 (B)	6,469,203,117	6,289,713,453	179,489,664
教育活動収支差額 (C) = (A-B)	△ 91,699,569	160,360,556	△ 252,060,125
教育活動外収支			
受取利息・配当金	20,823,406	12,711,195	8,112,211
その他の教育活動外収入	20,000,000	20,000,000	0
教育活動外収入計 (D)	40,823,406	32,711,195	8,112,211
借入金等利息	0	0	0
その他の教育活動外支出	0	0	0
教育活動外支出計 (E)	0	0	0
教育活動外収支差額 (F) = (D-E)	40,823,406	32,711,195	8,112,211
經常収支差額 (G) = (C+F)	△ 50,876,163	193,071,751	△ 243,947,914
特別収支			
資産売却差額	49,248,509	52,285,922	△ 3,037,413
その他の特別収入	52,947,108	60,878,966	△ 7,931,858
特別収入計 (H)	102,195,617	113,164,888	△ 10,969,271
資産処分差額	46,845,401	19,716,570	27,128,831
その他の特別支出	374,704	1,120,532	△ 745,828
特別支出計 (I)	47,220,105	20,837,102	26,383,003
特別収支差額 (J) = (H-I)	54,975,512	92,327,786	△ 37,352,274
基本金組入前当年度収支差額 (K) = (G+J)	4,099,349	285,399,537	△ 281,300,188
基本金組入額合計 (L)	△ 524,643,373	△ 422,916,446	△ 101,726,927
当年度収支差額 (M) = (K+L)	△ 520,544,024	△ 137,516,909	△ 383,027,115
前年度繰越収支差額 (N)	△ 6,177,632,562	△ 6,043,243,583	△ 134,388,979
基本金取崩額 (O)	59,135,851	3,127,930	56,007,921
翌年度繰越収支差額 (P) = (M+N+O)	△ 6,639,040,735	△ 6,177,632,562	△ 461,408,173
(参考)			
事業活動収入計 (Q) = (A+D+H)	6,520,522,571	6,595,950,092	△ 75,427,521
事業活動支出計 (R) = (B+E+I)	6,516,423,222	6,310,550,555	205,872,667

4 貸借対照表

貸借対照表は、期末における財政状態を示しています。資産がどのような調達源泉、すなわち負債（借入金等）、及び純資産（基本金、繰越収支差額）によってまかなわれているかを表示しています。

（１）資産の状況

年度末の資産の部合計は、253億 614万円で、前年度末に比べて 3,466万円の増となりました。

有形固定資産は、前年度末に比べて 1億 988万円減の 163億3,844万円となりました。主な減少の要因は、固定資産の取得（構築物、機器備品及び図書等）による増はあるものの、建物の減価償却資産の減によるものです。

特定資産は、学園維持引当特定資産への組入れを行うことで、前年度末に比べて 3億1,734万円増の36億7,410万円となりました。

その他の固定資産は、前年度末に比べて 1億5,190万円増の 29億3,550万円となりました。これは、保有する満期目的の有価証券の増加やびソフトウェア等の取得によるものです。

流動資産は、3億2,470万円減の 23億5,809万円となりました。主な要因は、満期保有目的の有価証券取得に伴い現金預金が減少となったことによるものです。

（２）負債の状況

負債の部合計は、28億5,877万円で、前年度末に比べて 3,056万円の増となりました。

固定負債は、前年度末に比べて 1,287万円増の 14億9,077万円となりました。これは、退職給与引当金の増加によるものです。

流動負債は、前年度末に比べて 1,769万円増の 13億6,799万円となりました。前受金及び預り金の減はあるものの、未払金及び仮受金が増となったことによるものです。

（３）純資産の状況

資産の部合計から負債の部合計を差し引いた純資産の額は、224億4,737万円となり、前年度末に比べて 410万円の増となりました。

基本金は、令和3年度に 4億6,551万円を組み入れたことにより、290億8,641万円となりました。

繰越収支差額は、事業活動収支計算の結果、繰越支出超過が 4億6,141万円となり、△66億3,904万円となりました。

注）文中の金額は、万円未満を四捨五入して表記しているため、一致しない場合があります。

貸 借 対 照 表

令和 4 年 3 月 3 1 日

(単位 円)

資 産 の 部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
固 定 資 産	22,948,044,388	22,588,683,633	359,360,755
有 形 固 定 資 産	16,338,439,047	16,448,320,212	△ 109,881,165
土 地	3,767,202,690	3,767,202,690	0
建 物	10,006,720,610	10,175,649,387	△ 168,928,777
そ の 他 の 有 形 固 定 資 産	2,564,515,747	2,505,468,135	59,047,612
特 定 資 産	3,674,101,000	3,356,763,000	317,338,000
その他の固定資産	2,935,504,341	2,783,600,421	151,903,920
流 動 資 産	2,358,092,882	2,682,794,024	△ 324,701,142
現 金 預 金	1,592,540,237	2,104,367,254	△ 511,827,017
そ の 他 の 流 動 資 産	765,552,645	578,426,770	187,125,875
資 産 の 部 合 計	25,306,137,270	25,271,477,657	34,659,613
負 債 の 部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
固 定 負 債	1,490,774,366	1,477,904,433	12,869,933
退 職 給 与 引 当 金	1,486,455,326	1,471,926,345	14,528,981
そ の 他 の 固 定 負 債	4,319,040	5,978,088	△ 1,659,048
流 動 負 債	1,367,992,539	1,350,302,208	17,690,331
前 受 金	829,400,000	848,820,840	△ 19,420,840
そ の 他 の 流 動 負 債	538,592,539	501,481,368	37,111,171
負 債 の 部 合 計	2,858,766,905	2,828,206,641	30,560,264
純 資 産 の 部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
基 本 金	29,086,411,100	28,620,903,578	465,507,522
第 1 号 基 本 金	28,657,411,100	28,191,903,578	465,507,522
第 4 号 基 本 金	429,000,000	429,000,000	0
繰 越 収 支 差 額	△ 6,639,040,735	△ 6,177,632,562	△ 461,408,173
翌年度繰越収支差額	△ 6,639,040,735	△ 6,177,632,562	△ 461,408,173
純 資 産 の 部 合 計	22,447,370,365	22,443,271,016	4,099,349
負債及び純資産の部合計	25,306,137,270	25,271,477,657	34,659,613